

《運輸労連 第69回トラック部会・分科会》



2018年5月27～28日、運輸労連第69回トラック部会・分科会が函館の『花びしホテル』にて開催され、神奈川県連として1組合2名が出席しました。座長の坂本委員長(松岡満運輸労組)の挨拶に続き、日本列島の北からの順で、全国から27単組・2都県連と本部の65名が出席、自己紹介が行われました。

難波中央執行委員長より「運輸産業の実態がようやく社会的にも認知が高まってきたと思いますが、まだまだ、これから勝負だと思しますので、気を引き締めて取り組んで行きたいと思っております」と挨拶がありました。

続いて、浅井業種対策副部長(運輸労連本部)より各資料説明が行われ、三部屋に別れて分散会討議に入りました。

第1分散会には、柴田委員長(北海道通運)が分散会座長につき、働き方改革が進む中で各労組の時間管理状況について順番に報告されました。

※年間休日が120日以上ある単組には会場が、どよめいていました。

(二日目)

各分散会より、柴田委員長(北海道通運労組)、尾藤委員長(旭川通運労組)、世良委員長(札幌労組)が、分散会座長報告をして頂きました。

次に、三瓶書記次長(運輸労連本部)より「経営分析の手引き」として決算書を読むポイントには①損益計算書(収益性、労働生産性)②貸借対照表(財務安定性)③推移(成長性、異常な変動)を総合的に判断する事が必要になります。

武井書記次長(運輸労連本部)より「働き方改革法案の概要」雇用対策法改正・労働基準法改正・労働時間等設定改善法改正・労働安全衛生法じん肺法改正・同一労働同一賃金の法整備について細かく説明がありました。

